平成２９年度第１回岐阜県総合教育会議　議事録

１　開催日時及び場所

平成２９年５月２９日（月）　１５時００分　～　１６時３８分

岐阜県庁舎　４階特別会議室

２　出　席　者

知　事　　古　田　　肇

教育長　　松　川　禮　子

委　員　　稲　本　　正

委　員　　土　屋　　嶢

委　員　　月　村　時　子

委　員　　野　原　正　美

（森口祐子委員は欠席）

３　関係者

県立岐阜高等学校校長　　南　谷　清　司

４　オブザーバー

副知事　　上　手　繁　雄

清流の国推進部長　　尾　藤　米　宏

副教育長　　石　原　佳　洋

５　陪　席

清流の国づくり政策課長　　辻　川　和　希

教育総務課長　　布　施　明　彦

６　議事録

別紙のとおり

議　　事　　録

発言者	発　　言　　内　　容
尾藤部長	これより平成２９年度第１回岐阜県総合教育会議を開催する。 本日の議題は、大学進学を主目的とした普通科の活性化について、子どもの安全確保について、県立学校講師自死事案と今後の教育委員会の対応についての３点である。
大学進学を主目的とした普通科の活性化について	
副教育長 岐阜高校校長	資料１により説明
意見交換	
稲本委員	高校生がモチベーションを持つかどうか、高校や大学へ行って、どういう人間になるかが重要。モチベーションが高くなれば、優秀な子は必然的にそのための努力をする。 生徒の個性を伸ばすことと、国公立のよい大学に入ることは必ずしもイコールではない。 結論から言うと、単位制はすごくいいと思っている。
月村委員	教育のシステムを変えること、例えば、単位制や全県一区は、今後考えていかなくてはいけないことだと思う。 一方、普通の子たちを格上げできるシステムも考えていく必要がある。中堅進学校においては、学習指導をしっかり行い、１人１人の個性に合った進路指導、専門性を生かす学科編成を充実させていくことが重要。 トップの子たちは自分の力でやり抜けるが、その下のレベルの子たちは、上手に指導していかないとなかなか上がっていかないのが現状。
知事	事実関係で、いくつかお聞きしたい。 資料５頁、進学指導重点校に、岐阜高校が入っていない理由は何か。 全県一区にすると、例えば飛騨から優秀な生徒が岐阜高校に通うことで、岐阜高校の進学率が上がると捉えるのか。全県一区により、何がどう変わるのか。 岐阜高校に行きたいのに行けないという不満やニーズがどの程度あるのか。 個性化の議論と進学率を高めようという議論はどのような関係になるのか。両方を実現しようとしているのか、どちらかに特化しようとしているのか。 進学率を高める議論に関連して、県内で素晴らしい予備校とされているところでは、どのような教育を行っているのか。東京あたりでは、予備校の先

	生に高校に来てもらい、指導してもらっているケースもあると聞く。 一方、単位制の高等学校の教育に問題があるという話が聞こえてくる。子どもの好き放題で、非常に歪になっており、バランスのとれた勉強をせず、特技だけやって卒業して大丈夫かというもの。実態はどうか。 さらに、進学指導もさることながら、近年の大学生の学力低下については、多くの方が言っていること。大学生の学力低下と、受験生のレベルを上げていくことはどのように繋がっていくか。 ところで、「岐高新聞」を取り寄せ単純に比較したところ、我々の頃は、あらゆるところが受験一色だったが、140 周年記念のものは、受験の文字が全くない。これは、どのように捉えたらよいか。
副教育長	進学指導重点校４校の選定については、トップの８校の中から、スーパーハイスクール等別途の取組みを行っているところを除外すると、岐阜、岐阜北、可児の３校。このうち、岐阜は状況が突出しているため、岐阜北高校と可児高校を選定。 加茂高校は、近年定員割れが顕著であるため、大垣南高校は、大学合格者数が激減しているため、選定。いずれも、何らかの対策を講じるべき高校を選定している。
知　　事	スーパーサイエンスハイスクール、スーパーグローバルハイスクール、スーパープロフェッショナルハイスクールには、岐阜高校が入っていないが、「科学の甲子園」や「自然科学系部活動」に岐阜高校が出てくる。
副教育長	教育委員会としては、科学の甲子園にせよ、生物班にせよ、スーパーサイエンスハイスクールの方から出てほしいとの思いがあったが、教育委員会の思いとは違う形となった。
知　　事	岐阜高校がスーパーハイスクールに入っていない理由は。
岐阜高校 校　　長	当時のことは定かでないが、指定を受けて指定の枠の中で取り組むより、自分たち独自の方法で頑張るという思いが強かったのではないか。 個性と進学の関係については、いま、岐阜高校では、私立高校のように７～８時間授業や土日授業を実施するのではなく、放課後を中心に生徒の心に火をつけるため、講演や体験など、いろいろな取り組みを行っている。自分の個性に合った分野を見つけ、興味を持ち、その結果として学ぶ意欲を向上させ、大学での学びにつながるよう勉強してもらいたいと考えており、そのサポートの仕組みの中で進学指導体制も作っている。 また、「岐高新聞」については、昔は、生徒が自ら原稿を集め、編集していたが、今は生徒にそのようなパワーはなく、教員が御膳立てをして作成しているのが実態。そのため、紹介や激励が多くなっているのが現状。
副教育長	全県一区については、ある高校で東大を目指す子が岐阜高校にこれば、その高校の実績は減るが、岐阜県トータルでみるとそれほど違いはない。 ただ、いま、東濃と飛騨のみが岐阜高校に通えないため、その不合理の解消という意味合いが強い。
岐阜高校 校　　長	県内の予備校で岐阜高校が参考にさせていただくところはない。近くでは、河合塾がある。全国的には、ベネッセが中心となっている。教員自身は、ベネッセの研修会や意見交換会へ盛んに参加して勉強している。 全県一区については、ニーズ調査を行ったわけではないが、例えば、飛騨地区や東濃東部地区から東大を受験する生徒は毎年１～2 人。いない場合もある。このまま少子化が進むと、このような地域では、研究者や医師を目指

	す生徒を、能力ある生徒の集団の中で切磋琢磨させる環境の確保がだんだん難しくなってくる。岐阜高校には、例えば東大を４０人ほど受験するなど、才能豊かな生徒たちが互いに刺激し合う環境があるので、その門戸を開くことは県全体の人材養成にとって重要なことだと考えている。
稲本委員	単位制を導入しても、選ぶ生徒たちは自由度ができる。生徒がしっかりした目標を持つ必要がある。
知　　事	個性化に関連して、少し前、岐阜高校では、硬式野球の分野で特待生を入れていたが、評価は。
岐阜高校校　長	特待生ではなく、一般選抜の独自検査において、実技と英国数理社の試験を実施した。野球関係者の話によると、生徒に色がついてしまい、指導に苦慮したようだ。 また、入学してきた生徒が本当に野球で優秀であればよいが、所属チームは強かったものの中心選手ではない生徒が多かったため、それほどメリットがあったとは聞いていない。
知　　事	「岐阜高校を甲子園へ」という目標で鳴物入りで行ったが、結局うまくいかなかったということか。
岐阜高校校　長	それにより、岐阜高校を強くするということにはならなかった。
教育長	「大学進学指導連絡協議会（８校会)」とはどういうものか。
岐阜高校校　長	センター試験の点数が下がってきて、底上げするため、各地域のトップ校がタッグを組み、お互いに刺激し合って自分たちの地区を引っ張っていこうという目的でスタートした。それを受けて、徐々に点数も上がってきており、一定の効果は出ているが、最近マンネリ化しており、次の施策が必要。
副知事	本日の議論は、選抜制の高い高校と中堅校双方を含むとのことだが、中堅校には、選抜制の高い高校のノウハウを移転するくらいで、中堅校は別の論点で整理する必要がある。
野原委員	私は、学校群の初年度に受験し、岐阜高校に入学した。当時は、高校生はいろんな夢を持っており、その実現のため、部活や演劇、写真などに取り組んでいた。その後、世の中の背景もあるが、夢を持てなくなり、受験ではどこの大学に入るかが目的となっている。生徒の質が変わってきていることを痛感している。
土屋委員	高校にしても大学にしても非常に進学率が上がっており、高校進学率は100%近く、大学もほとんど行くようになった。これが根本的な問題点で、とりあえず高校へ、とりあえず大学へ、という考えの子どもたちがどれだけいるか。 私が関連する大学では、大学に入ってから中学生の分数を教える。教育とは何なのか。学校へ行くことか、自分たちがやりたいことを教えることか、行きたい大学へ行くことか、はっきりさせていかなければいけないと思う。１～２年でできるものではないが、考えていく必要がある。
知　　事	現場でご覧になり、高校生の学力は、明らかに下がってきているのか。

土屋委員	人によって違うが、中学程度の学力しかない子どもたちまでが大学まで来てしまった。その子のために照準を合わせて教育をしなくてはならない。
岐阜高校校長	それぞれの学校の使命がある。分数もできない子たちが社会に出て働いて社会に貢献できるように育てなければいけない高校と、岐阜高校のように、「こういう分野で研究をして社会貢献をする」という強い意識を持たせる高校とそれぞれ役割が違う。 大きく変わってきたのは、学力が上がったか下がったかではなく、進学率が高くなり、私の頃は大学進学率が 25%くらいだったのが今は 50%を越えたこと。進学率が同じならばそれほど学力が下がることはないのではないか。進学率が上がれば上がるほど進学者の学力は下がると思われる。
稲本委員	世界中の最先端の研究と、日本の受験制度は随分離れてしまっている。 また、社会を構成するためには、あるレベルの教育・教養が必要。
教育長	いま問題となっているのは、少子化の中での高校のあり方。以前は、岐阜県のそれぞれの圏域に進学校や商業高校、農業高校等いろいろなタイプの学校を用意できた。少子化の進展で各圏域に多様な選択肢を用意することが困難となってくる中で、例えば、県岐商へはどこからでも来られるが、普通科の進学校に来られないところがあるのは如何なものか、という考え方はある。市立高校ではなく、県立高校なので、岐阜県内の子にできれば平等な選択肢を用意すべきだと思うが、そうできなくなってきている中で、岐阜高校のようなトップの進学校のあり方が今のままでよいかは課題であり、南谷校長の提案は一つの方法と思う。たとえば、白川村の子は、どこへ行くにも下宿なので、愛知県の私学へ行くようなことが現実に起きている。基本的には、県内どこで生まれ育っても、希望する学校へ通学できるようにしたいという気持ちはある。 逆に、飛騨に、岐阜から行ってみたいと思うような個性的な高校もあってほしいと思う。 今日は、たまたま岐阜高校が例に出ているが、基本的には、それぞれの学校が課題を鮮明にして生徒を集める方法を、競い合えるようにすべきであるし、県教委もさまざまなサポートを行う必要がある。
子どもの安全確保について	
副教育長	資料２により説明
意見交換	
副知事	メールは全県一区か。
副教育長	全県である。かなりの数になる。
知事	線の引き方が難しい。圏域にするわけにもいかない。
副知事	件数はどの程度か。
副教育長	毎日数件から 10 件くらい。
知事	学校でも、担当を決めてウォッチしてもらい、注意喚起してもらう必要がある。

稲本委員	地域の見守る側の教育も必要。
副教育長	ボランティアの団体が集まる場で研修を実施したり、お互いの顔が見える関係づくり。まずは、挨拶の励行から実施予定。
知　　事	今回は、見守る側に問題があったということ。
教育長	「この方は良い、悪い」のスクリーニングができない。できるだけ複数単位で実施し、見たことのない人が急に入ってこないようにする。 また、下校時はバラバラ帰るため、自宅へたどり着くまでの見守りは困難なので、ある程度は自分で守り、防犯ブザーを使う練習をしていただきたい。
月村委員	低学年は集団下校ではないか。
副教育長	集団下校は実施しているが、途中からばらけてくる。
県立学校講師自死事案と今後の教育委員会の対応について	
副教育長	資料３により説明
意見交換	
稲本委員	勤務時間やパワハラについては規則化する。 疲労が蓄積してくると、判断能力がなくなり、自死につながる。県教育委員会でも取り入れているとのことだが、然るべき研究論文も多く出ているので、問診を行い、疲労具合を測る方法があるので、事前に見つける。指を入れるだけで疲労度合が数値化されるので、予めチェックする。予防医学的に対応できるとよい。また、ストレスを事前に軽減し、最悪な事態を回避する方法もある。
副知事	教員は、知事部局のようにストレスチェックを実施し、医者の診察を受けるよう指示しているか。
教育長	実施しているが、なかなか医者にかからない。医者の診察が必要な人は何人かいるが、実際に受診する人は少ない。
副知事	そこに問題があるのではないか。
尾藤部長	最後に、教育長と知事からご発言をお願いします。
教育長	教育委員会として、今回の公務災害認定を大変重く受け止めており、適切な人事労務管理を実施していきたい。 「議題１」高校の活性化にも関連するが、活性化するにも教職員が実施するわけであり、そのベースがこのように揺らいで十分力を発揮していただけないとか、モチベーションが上がらないというのは大きな問題。これまでも取り組んできているが、なかなか解決しない。また、経験に応じた業務の分担についても、教員は他の職種と異なり、教員になっていきなりベテランと同じような業務を要求される側面もある。他の職種とは違うという意識が管理者にも先生方にもあったが、今回の事案を大きな契機として、抜本的に仕事の内容を見直していただきたいし、管理者のあり方を考えていきたいと思っている。知事部局が業務の棚卸しをやっているが、学校でも、「これもあれも必要だ」と言っていたらどれだけ時間があっても足りないので、本当

	に必要なものは何かを徹底的に洗い出していただく。また、適正な人事評価というもの、教員の世界は必ずしも上司と部下の関係ではなく、人間関係が難しいところがあるが、そんなことを言っていられない状況であるので、教育界に良い人材を集めるためにも、今回は相当の覚悟でやるつもりである。
知　　事	総合教育会議にふさわしい３議題であったと思う。教育の世界だけで完結するのではなく、広くいろんなところに目線を置きながら取り組んでいただきたい。
尾藤部長	それでは、これをもって本日の会議を終了する。